

項目80:救急・消防・災害

○:良かった事 ヒントNO①~⑨

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ント NO	○ ●	コメント
								ヒントNO①:救急車・消防車の利用、②:本人とのコミュニケーション ③:医療的対応、④:家族への連絡、⑤:まわりの人の協力、 ⑥:災害・緊急時の連絡、⑦:避難所、⑧:災害・緊急時の医療的配慮 ⑨:避難訓練
1	15	M	B1	35	80	1	○	7歳くらいのころ、インフルエンザで高熱のため救急車を利用したことがあるが、「自閉症です」と伝えたら、わめく子に対して、担架にむりやり乗せることもなく、力で抑えることもなく(必要なら抑えても仕方ないが)、声かけも優しい感じで対応してくれた
2	24	男	A1	51	80	1	○	○ 県立総合防災センターに遊びに行った時(たまたま消防大会の時で会場は大賑わい)、男子用トイレで小学生だった息子が困った時、中に居た消防隊の方が息子の世話をして出てきてくれた。
3	28	M	A1	51	80	1	○	祖母を救急車で搬送していただいた時、同乗して病院へ行った経験があるが問題なかった
1	24	男	A1	51	80	3	○	○ 小さい頃から、夜にガラスで足を切ったり、休日にひどい捻挫をして歩けなくなったりして、何度か藤沢市民病院の救急窓口に行ったことがあるが、その時の当直の医師は、私(母親)の話をよく汲み取っていただき、かかりつけの病院でも難しいのに、何とか診療できたことに驚かされたことがある。
1	12	M	0	20	80	5	○	道路の渋滞で急に帰宅が遅くなり、暗くなっても戻らない私を心配して子どもがパニック状態で隣家に駆け込んだことがあった。遠くの親戚より近くの他人というけれど、隣近所にはよく話をして理解をしてもらっておくと助かるなど実感した。近所づきあいは苦手だが必要だと思う。登下校指導などで、できるだけ私も顔を覚えてもらい、近所の人も子どもに声をかけてくれる状態を作れたことがとても大きいと思う。
2	15	男	A1	23	80	5	○	3. 11の震災の時に、町内会長が安否確認に来てくれた。
3	15	男	A1	23	80	5	○	4月の町内会長交代時に新会長と防災部長が個人カードの内容確認に来てくれた。
4	34	M	B1	51	80	5	○	周りの人の協力で助かりました
1	9	M	精2	21	80	6	○	昨年の地震の際、学童を利用しているおかげで、パニックになりかけの子を安全な場所へ移動していただき、大人の目で見えていた。時間が帰宅の頃だったので、とても助かった。子ども一人では、とても無理だった。
2	18	F	B1		80	6	○	町内会で独自に災害・緊急時の要支援者リストを作り、近隣の方々で支援できる体制を整えてくださっている。
3	21	男	A2	52	80	6	○	今居る施設では、職員がすぐに駆けつけられる距離に住んでいるので、休みの日でもすぐに対応してくれる。)【居住:入所施設】
4	24	M	A2	0	80	6	○	災害時要援護者支援の依頼をし、先日地域の何方人かがかかわっていただけるとなり、息子のことを知っていただくきっかけとなり、少し近所の方とのつながりができた
5	24	男	A1	51	80	6	○	地域の自主防災会の方々に障害者の避難誘導について基本的なことを知っておいて欲しい。
6	35	M	A2	62	80	6	○	大震災の時は、電車が止まり帰宅できない状態だったが、迎えに行くまで職員が非常食を食べさせて対応してくれた。
7	45	男	精2	61	80	6	○	藤沢市では、お年寄りや障害者に「安心見守りカード」を配布しており、災害時など対応してもらえると同い、民生委員の人に聞いてカードをもらった。
1	13	M	A2	23	80	7	○	子どもが通っている療育センターの夏合宿は、5泊を避難所のように薄い布団で大勢でザコ寝なので良い訓練になる。
1	12	M	B2 精3	22	80	9	○	自治会主催の防災訓練に幼いころから欠かさず参加しています。変わった子だという理解も含め、地域社会に存在を知らしめることができたかと自負しています。
2	15	男	A1	23	80	9	○	福祉団体連絡会で開催した避難訓練が障害理解に効果的だった。
3	15	M	A1	23	80	9	○	地域の防災訓練に親子で参加し、明らかに障害のあるわが子の様子を見てもらった。
4	16	M	A1	35	80	9	○	民生委員さんのはからいで、家族不在時に消防士さんの誘導で一時避難所へ避難するという訓練ができた。

5	16	M	A1	35	80	9	○	誘導避難訓練を通して消防士さんに自閉症児のことを知ってもらえた。
6	19	男	B2	51	80	9	○	市の総合避難訓練の時、要援護者として参加できた。
7	19	男	B2	51	80	9	○	総合避難訓練で、待機中、来るまで待つことが許された。
8	24	男	A1	51	80	9	○	救急隊や消防隊の方々には自閉症がどういう人たちなのかを、基本的なところだけでも知っておいていただきたい。
9	28	M	A1	51	80	9	○	地域の避難訓練に一度参加。本人を紹介できたかもしれない

項目80:救急・消防・災害

●:困った事

ヒントNO①~⑨

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ン ト N O	○ ●	コメント ヒントNO①:救急車・消防車の利用、②:本人とのコミュニケーション ③:医療的対応、④:家族への連絡、⑤:まわりの人の協力、 ⑥:災害・緊急時の連絡、⑦:避難所、⑧:災害・緊急時の医療的配慮 ⑨:避難訓練
1	8	男	B2	22	80	1	●	小さい頃、呼吸が停止したことがあり、病院からてんかん発作の時救急車を呼ぶように言われましたが、救急車が着くころには元気になっていて、呼ばないように注意されました。今は、自分の判断で対処しています。
2	11	M	0	22	80	1	●	救急車に乗った時に救急車の方たちには子どもの事を伝えわかってもらえたようだったが、病院につなげてくれなかったようであった。
3	19	M	B2	72	80	1	●	昨年の3・11の東日本大震災の際、まだ親元におりましたので難儀さを幸い体験しておりません。実際その場に本人一人だけだったら…そう思うと大変不安ですが(その際療育手帳を持参していればよいのですが)【居住:その他】
4	23	M	A1	51	80	1	●	いつも一緒に行動しているが、はぐれてしまった時の体制ができていない祖母と息子が階段から落ち、救急車で病院に行く時、祖祖母(痴呆)を残して外出することになり、とても困った
1	9	男	B2	21	80	2	●	スポーツ中に本人が体調が悪くなったが、表現できなかったが、倒れる前にコーチが気付いた。
2	9	男	B2	21	80	2	●	体調の表現ができないこともあるが、本人が体調不良を認識できない。
3	14	M	A2	23	80	2	●	本人が自分の事が伝えられない。体調の悪さも周囲の人の観察に頼っている
4	21	F	精3	42	80	2	●	困り毎を自分で伝えることができない(がまんをしてしまう)
5	36	M	A1	51	80	2	●	痛いとか痒いと言えないので、親が判断するしかなく心配。
1	12	M	B2	22	80	3	●	救急で怖い感じの医師にあたってしまい、本人がうまく病状を伝えられなくて困った。
1	7	M	A2	22	80	6	●	要援護者登録制度に登録したが、地域の自治会長の理解度が薄く、この制度の信用性に疑問を感じた
2	22	M	A1	51	80	6	●	自宅が属する町内会が災害時要援護者名簿を受け取っていないこと
3	38	男	B1	51	80	6	●	計画停電が時間通りでなかった。
1	7	女	B3	21	80	7	●	本人(おむつについて)友達と違うことについて自覚があるため、避難所等の場所に長時間居られないと言う。友達におむつを知られたくないので、学校等には避難できないと言う。
2	7	M	A2	23	80	7	●	避難所生活は、人ごみが苦手なので無理だと思うので非常に心配です
3	10	男	A2	23	80	7	●	避難所では人が多すぎて、その場にいることができず、人のいない階段で過ごし、すぐ出てきました。
4	14	M	A2	23	80	7	●	絶対に、他人が多い所には行けないので、配給物資がどうなるか心配です。
5	16	M	A1	35	80	7	●	避難所の数少ないトイレの個室にこもって占領してしまった。
6	22	M	A1	51	80	7	●	市に何年にも渡り要望しているが、未だに福祉避難所(知的障害者を受け入れる)が、指定されていない
7	24	男	A1	51	80	7	●	地域の自主防災会で、災害時に避難支援を希望する要援護者の名簿を作成し始めたが、そこから安否確認のシステムになかなか繋がっていない。現状の避難所運営を見ると、災害時に自閉症が避難できる環境ではない。
8	38	M	A2	51	80	7	●	実際には体験していないが、体育館などが避難所になったら広い空間では居場所がなく混乱すると思う【居住:GH・CH】
9	11	男	A1	23	80	7	●	幸い避難所を利用したことはないが、災害が起きた場合、他の人の迷惑になるので、避難所には入れないと覚悟している。
10	38	男	A1	51	80	7	●	避難場所に大勢の避難社との共同生活ができるかどうか、いちばん心配しております。
1	37	M	A1	51	80	8	●	災害時にどれだけ助けていただけるのか、障害者がいることを知ってくださっているのか、民生委員の方が一度も家に来たことがないです。書類は提出してあるけれど
1	22	男	A1	51	80	9	●	避難訓練も障害特性から困難だった。
2	34	M	A2	51	80	9	●	地域の避難訓練に参加するようにしているが、配慮があるとは思えない【居住:GH・CH】

項目80:救急・消防・災害

20:望む事

ヒントNO①～⑨

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	20	ヒ ン ト N O	コメント ヒントNO①:救急車・消防車の利用、②:本人とのコミュニケーション ③:医療的対応、④:家族への連絡、⑤:まわりの人の協力、 ⑥:災害・緊急時の連絡、⑦:避難所、⑧:災害・緊急時の医療的配慮 ⑨:避難訓練
1	8	F	A2	23	80	20	4	市外の学校に通学しているため、子どもが学校にいるときに震災が起きた場合、車の通行を止められてしまうと、歩いて迎えに行き、一緒に歩いて家に帰らなければならない、かなり困難。救急や物資運搬の為に主要な道路(東名高速など)に通行規制をかけることは必要だと思うが、損傷の激しくない一般道は通行させて欲しい。やむなく通行規制をかける場合、連れて帰る時間を確保したいので、「何時から通行止め」という形をとって欲しい。震災が起きたら…と考えると、常にこのことが心配です。
2	16	M	B2	33	80	20	4	学校が座間市でないので、災害時の判断が難しい
1	15	M	A1	23	80	20	5	地域での人間関係作りのため、定期的な顔あわせの場を設けてほしい。支援者・要援護者、第3者(障害の専門家)が集まり、日頃から意見交換ができるとよい。
2	17	F	A2	35	80	20	5	自閉症の理解
1	7	M	A2	22	80	20	6	自治体に、地域の障害児支援が必要だと周知してほしい
2	7	M	A2	22	80	20	6	要支援者登録制度を通園・支援級等の保護者へ周知するべきだ
3	13	M	A2	23	80	20	6	例えば、この家には、障害者、高齢者がいるなど把握しておいてほしい。
4	15	M	B1	35	80	20	6	災害・緊急時の支援が心配。理解をしてくれる人の数が多いほど安心感が増す。具体的な支援方法を提示してもらえると不安も少なくなるように思う
5	19	男	A2	51	80	20	6	災害時対策としては、地区の民生委員に委ねるだけでなく、行政が要援護者を把握して、災害ボランティアに情報提供できるようなシステムを作って欲しい。
6	19	M	B2	72	80	20	6	療育手帳を持っている被災者には注意していただきたい。持参していなくても自己申告したら、丁寧に対応していただきたい【居住:その他】
7	21	男	A2	52	80	20	6	役所や通っている施設と連携や情報収集を常に取って、何か災害等の有った時、動きがとれないであろう本人と支援者、家族に確認して欲しい。【居住:入所施設】
8	22	M	A1	51	80	20	6	災害時要援護者プランの現実的な施行。災害前の震災を踏まえた準備
9	24	男	A1	51	80	20	6	藤沢市では高齢者の安否確認は民生委員に丸投げ状態だが、地域の自主防災会の安否確認や避難所運営が機能するよう、市として実行可能な要援護者対策のシステムを考えてほしい。市として枠組みだけでも作っていただければ、自ら地域の人と繋がって具体的に準備しやすい。
1	9	M	精2	21	80	20	7	南の地区にも、障がい者対応の避難所が欲しい。
2	10	男	A2	23	80	20	7	避難所で静かな空間があったら、急遽、その場所を使わせてくれたら助かります。階段や廊下だったりするので、マットや毛布があったらそこに逃げられそうです。
3	12	M	B2	22	80	20	7	災害時、知らない人が多いと不安感が増すので個別にして欲しい。
4	16	M	A1	35	80	20	7	避難所に自閉症者用の別スペースを設けて欲しい
5	16	M	A1	35	80	20	7	誘導時や避難所にコミュニケーション支援ツール(イラスト、写真など視覚的に分かりやすいもの)を用意して頂きたい。
6	18	M	A1	35	80	20	7	避難所での自閉症の子ども的一家に対して過ごす場の提供を考えて欲しい。(避難所に車をおいて過ごすなど)
7	18	M	B1	51	80	20	7	集団生活が苦手な人には、別の避難できる場所を確保してほしい。
8	18	M	A2	51	80	20	7	一時避難所で多数の避難者との共同生活が困難だと予想されるので支援を望む
9	19	男	A2	51	80	20	7	避難所生活できない家族にも細部にも支援物品が行き届くようにして欲しい。
10	19	F	A1	51	80	20	7	一般避難所にも学校の教室利用などにより、個別の区切られた福祉避難所を併設して欲しい。
11	20	M	B1	51	80	20	7	災害時のスムーズな避難と避難場所の整備をすすめてもらいたい
12	20	M	B1	51	80	20	7	避難所ですっとおしゃべりしたり、さわぐ事を理解してもらいたい。家で過ごしたいので準備はしているが家が被災したらと心配。

13	22	男	A1	51	80	20	7	災害時、避難所に行けないが、障がい者の情報を把握し、確認し、物資を配布して欲しい。
14	23	F	A2	51	80	20	7	停電等、普通と違う状況では騒ぎ立てると思うが、許してほしい。
15	28	M	A1	51	80	20	7	福祉避難所を作ってほしい。配給などには並べないので配慮してほしい
16	30	M	B1	51	80	20	7	震災が起こったら我が子も大パニックになるであろう。説明しても理解できないので、とても心配。障害者用の避難場所が別に欲しい。
17	35	M	A2	62	80	20	7	一般の人達と一緒に避難所では、特性上無理だと思う。
18		M	A1	23	80	20	7	障害のある人専用の避難所があるとよい。
19					80	20	7	避難所での共同生活は無理、対策を考えてほしい
1	14	M	0	21	80	20	8	非常時に、自閉症に理解のある人が対応してくださるだけで、本人はだいぶ落ち着いて対応できると思うので、医療スタッフ等にはぜひ理解していただきたい。
1	12	F	B3	21	80	20	9	災害を事前にシュミレーションできると良いと思う
2	23	M	A1	51	80	20	9	一人暮らしの老人や障害者の把握、行政指導のもと災害時等の対応を日頃より、地域で訓練する必要がある
3	24	男	A1	51	80	20	9	福祉団体連絡会がやっている出張避難誘導体験を地域の自主防災会で開催し、地域の方と障害者とが意見交換する場を設ける。

## 項目80:救急・消防・災害

## 30:求める合理的配慮

## ヒントNO①～⑨

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	30	ヒ ン ト NO	コメント
								ヒントNO①:救急車・消防車の利用、②:本人とのコミュニケーション ③:医療的対応、④:家族への連絡、⑤:まわりの人の協力、 ⑥:災害・緊急時の連絡、⑦:避難所、⑧:災害・緊急時の医療的配慮 ⑨:避難訓練
1	12	M	B2	22	80	30	1	医療ボードで指差して状態を伝えられるなど、急なときほど同じ支援があると安心できる。
1	28	M	A1	51	80	30	5	地域に支援者がいることの確認
2	28	M	B3	51	80	30	5	社会の様々な場面で辛い体験をしているので、公的機関の方々には、本人の気持ちに共感して、何よりも本人との信頼関係を築いて欲しい。言動・行動等への注意から始めると、心を閉ざしてしまう。
1	18	M	B1	51	80	30	6	災害時の対応支援
2	19	M	B2	72	80	30	6	対応がしっかりしていることもあり、健常者と間違われることもあり、誤解から、取り残されたり、大丈夫と思われがち。見守る存在の人が家族以外にも必要) 【居住:その他】
3	22	M	A1	51	80	30	6	公助が災害直後からできるようにすること
1	15	M	A1	23	80	30	7	福祉避難所の開設。個室化。視覚支援。
2	16	M	A1	35	80	30	7	避難所に自閉症者用の別スペースを設けて欲しい
3	16	M	A1	35	80	30	7	誘導時や避難所にコミュニケーション支援ツール(イラスト、写真など視覚的に分かりやすいもの)を用意して頂きたい。
4	16	M	B1	35	80	30	7	避難所はもちろん、給水車など緊急時、障害者ブース(代理オーケー)などの配慮がほしい
5	17	F	A2	35	80	30	7	コミュニケーションツールを常備してほしい
6	18	M	A2	51	80	30	7	一時避難所で多数の避難者との共同生活が困難だと予想されるので支援を望む
7	19	男	A2	51	80	30	7	災害時は、特に不安定になると思われるので、なるべく他の人と関わらないで すむスペースを用意する。
8	19	男	A2	51	80	30	7	避難所では、外部刺激を緩和するためにパーテーションは必須品
9	19	F	A1	51	80	30	7	落ち着いて避難生活が送れるように、個別の空間を用意して欲しい。
10	24	M	A2	0	80	30	7	今後大規模災害が起こった場合、避難所では配慮いただけるとよい
11	38	M	A2	51	80	30	7	災害時の一時避難所に障害者への配慮がされている教室等を設けてほしい 【居住:GH・CH】
1	45	男	精2	61	80	30	8	本人が病院を異常に怖がり恐怖心が強いので、そうした特性を認めてもらい、 安心して医療行為を受けられるような医師や病院が増えるように望みます。
1	23	F	A2	51	80	30	9	訓練等積極的に声をかけて参加させたい。